

研究室 からの メッセージ

Data (2025年11月現在)

所在地 〒350-1398

埼玉県狭山市稲荷山 2-15-1

スタッフ 山口佳子(教授)、大野順子(特任准教授)、
北澤健文(准教授)、一柳由紀子(講師)

URL <https://www.tokyo-kasei.ac.jp/>



左から、大野、北澤、山口、一柳

東京家政大学健康科学部

看護学科公衆衛生看護学領域

History and Now

どのような機関なのでしょう？

本学は「自主自律」を建学の精神とし、2026(令和8)年に創立145年を迎える総合大学です。人の生活を支える専門的な知識や技術を身に付け、社会に貢献する女性を育てています。

看護学科は2014(平成26)年4月に開設され、あらゆる年代の人々が住み慣れた地域でその人らしく生活することを支援できる保健師・看護師・助産師を育成しています。

Education

どのような教育をしていますか？

1・2年次に看護師必修科目として「地域・在宅看護学概論」「保健医療福祉行政論」などを開講し、発達段階や健康課題の異なる全ての人々が地域でその人らしく生活することを支援する各種制度と、それらを活用して展開する保健師活動について教えています。地域で生活する人々を支える看護の重要性和保健師の役割、社会資源について低学年から全ての学生が学ぶことにより、看護師として保健師と連携・協働しながら地域包括ケアを担う能力を培うとともに、保健師課程履修を動機づけています。

3年次は、領域別看護実習のない時期に、看護師選択・保健師必修科目「公衆衛生看護学概論」「地域保健」などで保健師についてさらに詳しく学びます。年度末に定員20名で選抜試験を行うこと

により、学ぶ意欲と能力、適性のある学生が保健師課程を履修しています。

4年次の保健師課程では、事例演習や地域診断演習の後に実習を行い、「公衆衛生看護管理」で実習を振り返ります。また、実習と関連づけて「看護研究Ⅱ」に取り組みます。講義や演習、実習、研究を連動させることにより、保健師の役割を追究し実践する能力を養っています。

Research

どのような研究をしていますか？

アルコール依存症支援や父親の育児支援、行政保健師の専門性、医療経済など、各教員の実務経験や専門性を生かした研究に取り組んでいます。領域としては、本学近隣地域における女性の飲酒と健康について実態調査を行い、普及啓発媒体を作成するなど、地域に根差した研究を大切にしています。

Collaboration

保健活動の現場とのつながりは？

入間市健康福祉センターによる地域診断を2016(平成28)年から支援しています(保健師ジャーナル, 79 [3]: 183-188, 2023)。保健師記録の書き方や事業評価などに関する研修講師、市町村健康増進計画の策定委員、埼玉県母子保健運営協議会の委員なども担っています。

ひとこと

「授業で聞いたのはこういうことだったんだ」と実習で瞳を輝かせる学生や、保健師として活躍する卒業生たちを見ることが楽しみです。これからも学生たちに保健師活動の魅力を伝えるとともに、現場の保健師が保健師らしい活動を実践できるよう支援していきたいと思います。

あなたの
研究室を
紹介して
ください!

保健師ジャーナルでは、このページに登場して下さる研究室(保健師教育に関わる講座・分野・領域)を募集中です。研究室での保健師教育の特色や、研究活動、現場とのつながりをご紹介します。

応募方法 ● 電話、FAX、E-mailのいずれかにて編集室までご連絡ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈いたします。

連絡先 ● 医学書院『保健師ジャーナル』編集室 ☎ 03-3817-5774 FAX 03-5804-0485 メール hokenshi@igaku-shoin.co.jp